

# 第1章 策定の背景と位置づけ

## 1 久喜市水道ビジョン策定の背景

平成22年3月23日に旧久喜市、旧菖蒲町、旧栗橋町及び旧鷲宮町が合併し、新「久喜市」となりました。本市は、首都圏中央連絡自動車道（以下「圏央道」という。）の白岡菖蒲インターチェンジ及び、東北縦貫自動車道（以下「東北道」という。）の久喜白岡ジャンクションが開通されるなど、県東北部の拠点都市としてますますの発展が期待されています。

水道をめぐる状況では、昭和30年代から40年代にかけて旧市町で創設された水道事業が数期の拡張を経て、市内全域にわたり水道水を供給しています。しかし、創設期から約40年が経過した現在、施設の老朽化が進み、今後は更新需要の拡大期を迎えようとしています。

また、厚生労働省では水道ビジョンにおいて、今後の水道のあるべき姿について重点的な政策課題と具体的な施策及び方策、工程を示すとともに、各水道事業者等が自らのビジョンを作成することを推奨しています。

本市の水道は、市町合併直後の久喜市久喜水道事業（旧久喜市水道事業）、久喜市菖蒲水道事業（旧菖蒲町水道事業）、久喜市栗橋水道事業（旧栗橋町水道事業）及び久喜市鷲宮水道事業（旧鷲宮町水道事業）の4つの水道事業が、平成24年4月に久喜市水道事業として統合する予定です。

このため、上下水道部では事業の現状と課題を分析・評価し、事業統合後、将来にわたり安心・安全で良質な水を安定的に供給できるシステムづくりを推進するため、水道の将来像を定め、これを実現していくための取り組みを示すものとして、「久喜市水道ビジョン」を策定することとしました。

## 2 久喜市水道ビジョンの位置づけ

### 2 - 1 位置づけ

本市では、合併に先立ち策定された、新市におけるまちづくり全般のマスタープランとなる「新市基本計画」に基づき、将来像である「豊かな未来を創造する個性輝く文化田園都市～人と愛、水と緑、市民主役のまち～」を実現するため、主要な施策の展開を図っています。水道に関する施策としては、安定給水の確保、水道施設の整備・充実のため、経年水道施設の計画的な更新、水道施設の耐震化、水質管理体制の充実等に努めるとともに、給水体制の一体化や一元管理など合理的な給水体制を整え、水道事業の効率化と健全経営に努めることとしています。

久喜市水道ビジョンは、「新市基本計画」における水道に関する主要な施策を着実に実施していくため、水道事業としての将来像を示し、これを実現するための取り組みを示すものです。

### 2 - 2 計画期間

計画期間は、事業統合後の平成24年度から平成33年度までの10年間とします。また、久喜市水道ビジョンの取り組みを着実に実施するため、社会情勢の変化などを踏まえ、目標の達成状況や取り組みの進捗状況について適宜再検討を行うことで、必要に応じて見直しを図っていくこととします。

